

特集1 川額・森下地区豊年まつり

かつぎまんどろが復活



1

一年の五穀豊穡を祈願する豊年まつりが川額地区と森下地区で行われました。

「コロナウイルス感染症の蔓延により、自粛されていましたが、4年ぶりの実施となりました。」

川額地区では、9月28日と29日に川額八幡宮で開催。手踊りや八木節が披露された後、川額下と川額上の中学生に担がれ2基のまんどろが入場。七回巡りが始まると、2基のまんどろは激しくつかあいました。



2

まんどろが激しくぶつかりあうたびに、観客から大きな歓声が上がっていました。

川額地区

- ①観客に見守られながら勢いよくつかあ
- ②川額下のまんどろのお披露目
- ③川額上のまんどろのお披露目
- ④小さな子どもも傘をもち八木節踊り
- ⑤地元八幡会による八木節の披露
- ⑥八木節を盛り上げたお囃子



3



6



5



4



森下地区

⑦まんどうを初めて担ぐ中学生 ⑧やぐらを囲って八木節の披露 ⑨森下八木節保存会によるお囃子 ⑩担ぐお手本を披露する青年団員 ⑪揃いの浴衣に身を包み手踊りの披露 ⑫提灯に照らされる八木節の舞

また、森下地区では9月30日に森下大森神社で開催されました。

祭りの音頭に乗って手踊りが開始されると、音色に引き寄せられ観客が集まり始めました。手踊りの後は八木節の披露。八木節保存会による威勢の良い掛

け声でお囃子が始まり、音色に合わせた八木節を披露し、会場を盛り上げました。

今年の森下地区では、地元青年団によって作成されたまんどう1基の登場。七回巡りで中学生たちに担ぐ体験を行いました。中学生たちは初めて担ぐまんどうの重さに苦戦する中、青年団員によるお手本の披露もありました。

両地区とも、大勢の観客が訪れ、4年ぶりに開催された伝統的な豊年まつりを堪能していました。

